

# 三菱電機グループ CSRレポート 2019

ハイライト



## Contents

経営戦略	2
会社概要及び業績／グローバルな事業展開	3
三菱電機の事業分野	5
社長メッセージ	7
価値創出活動	9
CSRマネジメント	11
マネジメント	11
CSRの重要課題とSDGsマネジメント	13
17の目標への取組	15
事業を通じた社会への貢献 取組一覧	16
CSRの重要課題に関するマネジメント状況	17
CSRの重要課題への取組	19
持続可能な社会の実現	19
安心・安全・快適性の提供	21
人権の尊重と多様な人材の活躍	23
コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化	25
社会貢献活動	27
掲載情報一覧	30

## 編集方針

本「CSRレポート ハイライト」は、持続可能な社会の実現に向けた三菱電機グループのCSRの取組について、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的に作成しました。三菱電機グループのCSRの全体像をお伝えするとともに、主に2015年度に特定した三菱電機グループのCSRの4つの重要課題に沿って、その基本的な考え方や取組事例を紹介しています。三菱電機グループは、社会への説明責任を果たし、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの輪を広げていきたいと考えています。忌憚のないご意見を頂ければ幸いです。

### 報告対象期間

2018年4月1日～2019年3月31日(次回発行予定2020年9月)

※2019年度以降の方針や目標・計画などについても一部記載しています

### 報告媒体について

三菱電機グループは、ウェブサイト「CSRの取組」／「CSRレポート」にて非財務情報について報告しており、環境情報についてはウェブサイト「環境への取組」／「環境行動レポート」にて詳細に報告しています。なお、「CSRレポート」はウェブサイトで開示し、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを目的とした「CSRレポート ハイライト」も発行しています。

### CSRの取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>



ウェブサイト



CSRレポート



CSRレポート ハイライト

### 環境への取組

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>



ウェブサイト



環境行動レポート

※詳しくはP.30「掲載情報一覧」をご覧ください

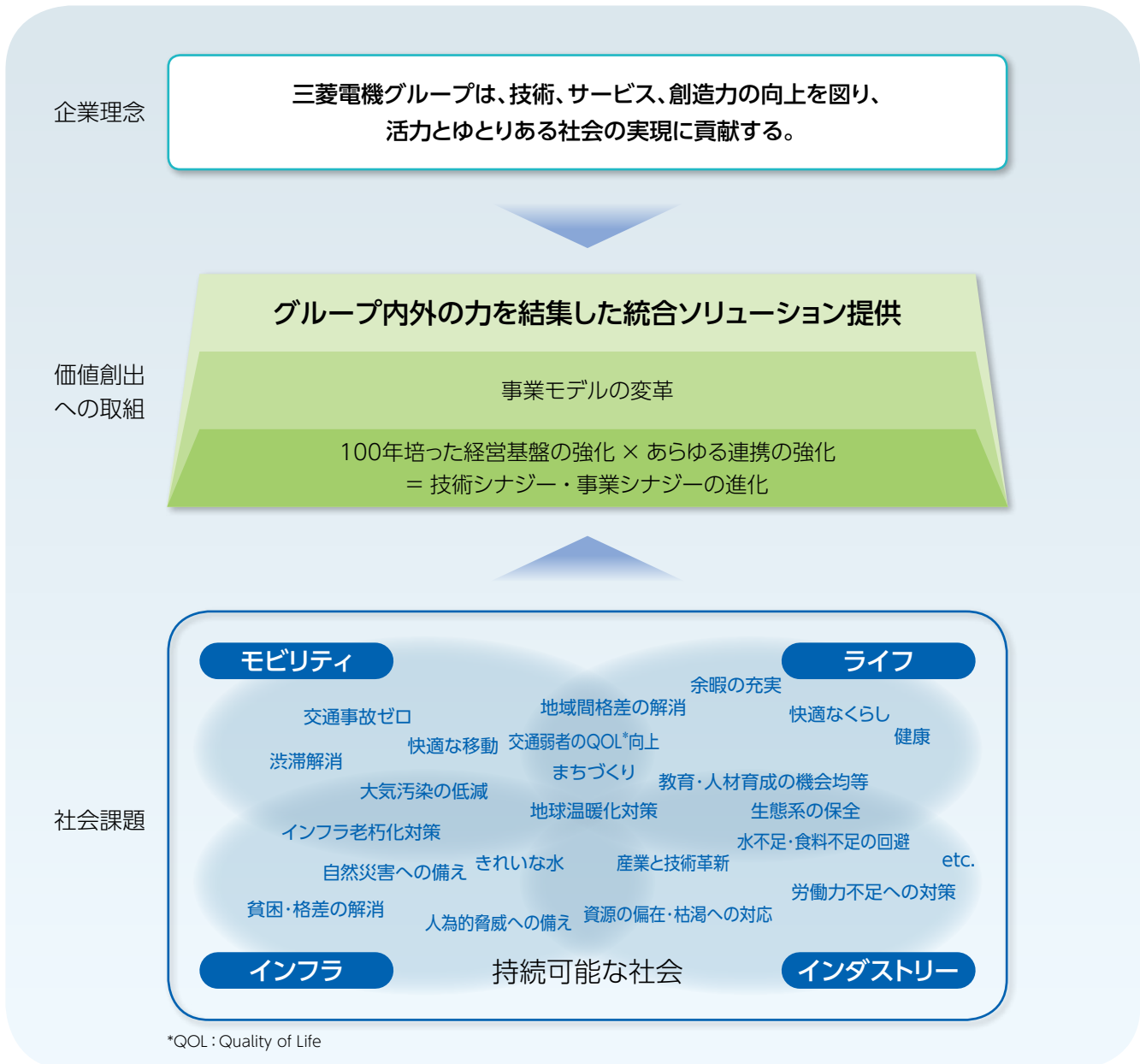
# 経営戦略

三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」に基づき、CSR(Corporate Social Responsibility)を企業経営の基本と位置付け、社会課題解決への取組を通じて価値を評価される企業、すなわち、事業活動を通じて「社会」「顧客」「株主」「従業員」をはじめとするステークホルダーから信頼と満足を得られる企業を目指しています。

環境問題や資源・エネルギー問題をはじめ多様化する社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等により解決に取り組み、「持続可能性と安心・安全・快適性の両立」をはじめとする価値創出を推進することで、グループ全体で持続的な成長を追求いたします。

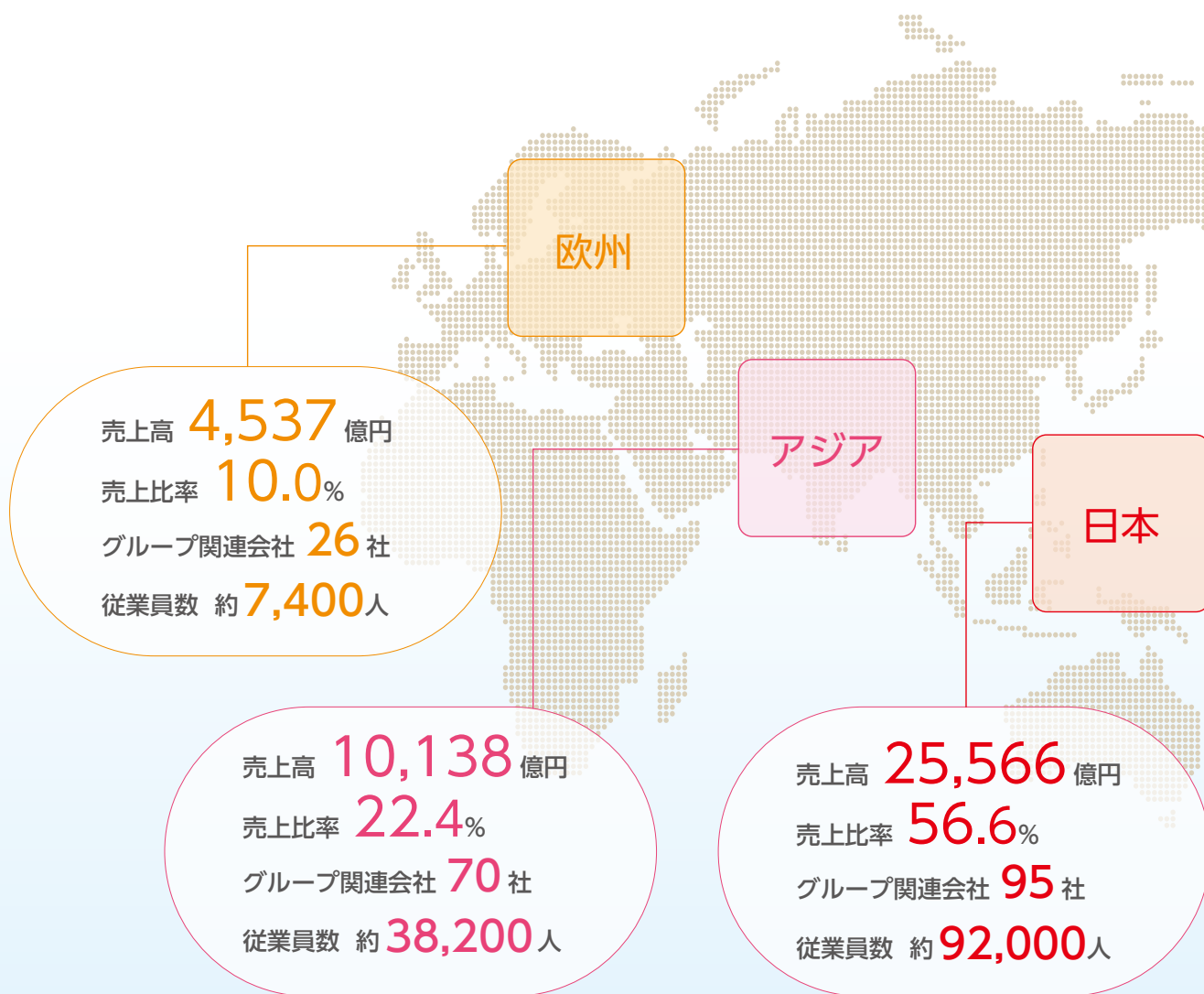
**《経営戦略》**  
 多様化する社会課題の解決に向け、100年培った経営基盤の強化に加え  
 事業モデルの変革により、ライフ、インダストリー、インフラ、モビリティの4つの領域において、  
 グループ内外の力を結集した統合ソリューションを提供する。

\*100年培った経営基盤：顧客との繋がり、技術、人材、製品、企業文化等





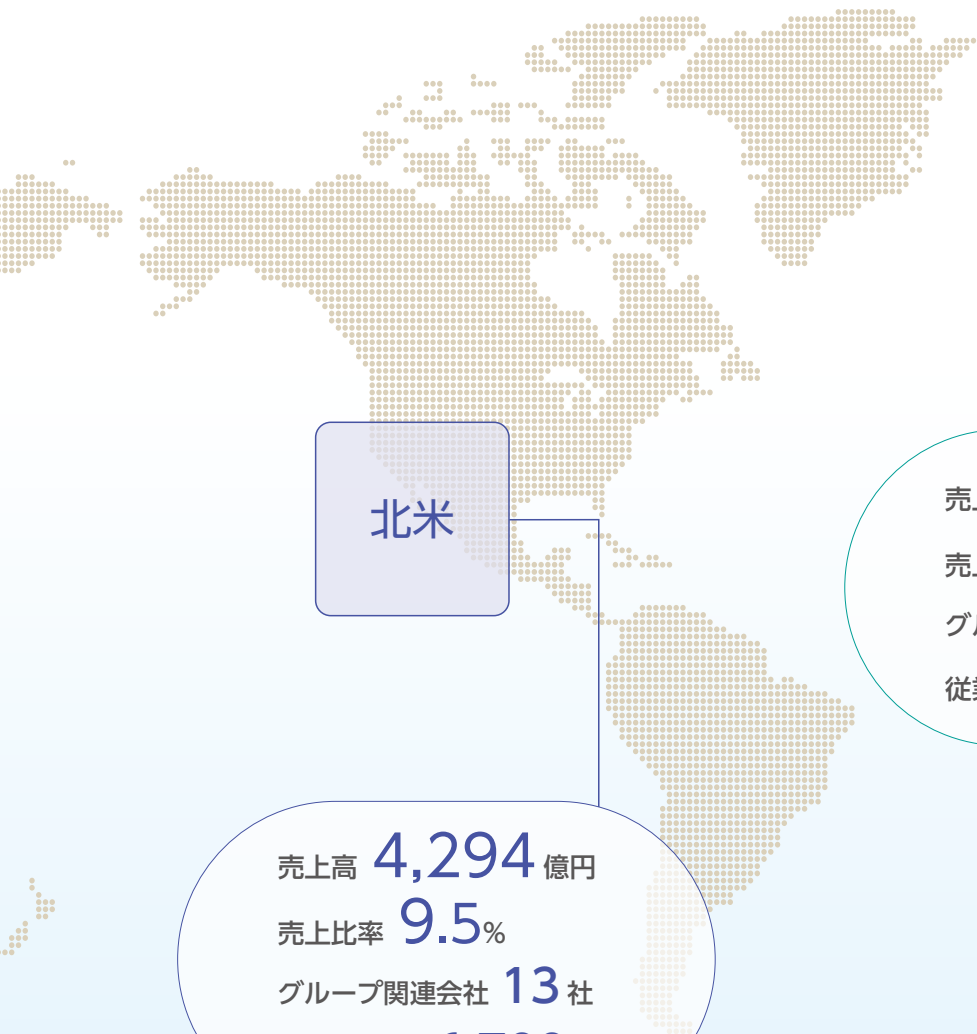
## グローバルな事業展開



## 会社概要 (2019年3月末現在)

社名：	三菱電機株式会社
本社：	〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビル
代表者：	杉山 武史
電話：	03-3218-2111 (代表)
設立：	1921年1月15日
資本金：	175,820百万円
発行済株式数：	2,147,201,551株
連結売上高：	4,519,921百万円
連結総資産：	4,356,211百万円
連結従業員数：	145,817人





北米

その他<sup>※</sup>

売上高 **661** 億円  
 売上比率 **1.5%**  
 グループ関連会社 **2** 社  
 従業員数 約 **1,500** 人

※オセアニア、中南米、アフリカ

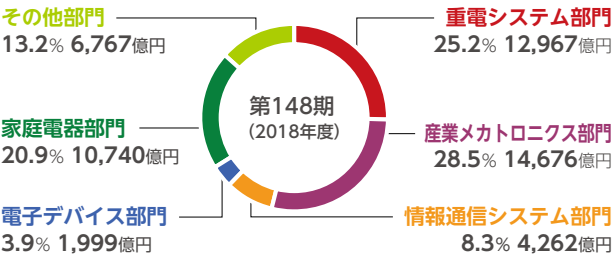
売上高 **4,294** 億円  
 売上比率 **9.5%**  
 グループ関連会社 **13** 社  
 従業員数 約 **6,700** 人

## 業績

	第147期 (2017年度)	第148期 (2018年度)
売上高	4兆4,444億円	<b>4兆5,199億円</b> (前年度比 102%)
営業利益	3,274億円	<b>2,904億円</b> (前年度比 89%)

※第148期(2018年度)より国際会計基準(IFRS)を適用しております。これに伴い、第147期(2017年度)についてもIFRSに準拠した数値を記載しております。

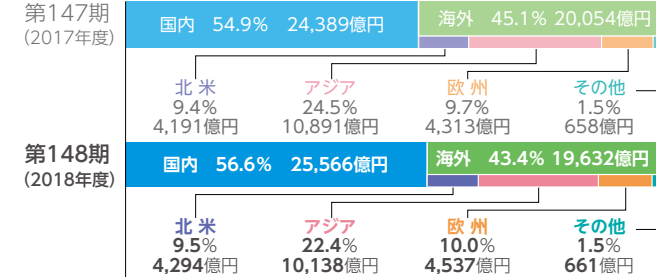
### 部門別売上高



※部門別売上高には、部門間の内部売上高(振替高)を含めて表示しております。

	第147期 (2017年度)	第148期 (2018年度)
税引前当期純利益	3,532億円	<b>3,159億円</b> (前年度比 89%)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,557億円	<b>2,266億円</b> (前年度比 89%)

### 向先地域別売上高



※向先地域別売上高は、顧客の所在地別に表示しております。

# 三菱電機の事業分野

## ビル



安全で快適な縦移動と環境にやさしく安心・快適・効率的なビルソリューションを提供。

三菱電機の昇降機は、世界90カ国以上で100万台以上が稼働し、人々の安全で快適な縦の移動に貢献しています。また、空調や照明などのビル設備の効率的な制御・管理や、セキュリティーシステムと各種業務システムとの連携により、環境にやさしく、かつ安心・快適・効率的なビルソリューションを提供します。

主な製品 ■エレベーター ■エスカレーター ■ビル管理システム ■ビルセキュリティーシステム

## 産業・FA

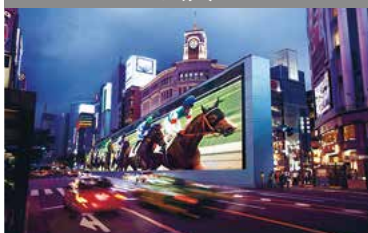


リーディング企業として日本の、世界の「ものづくり」を支える。

シーケンサーやレーザー加工機などのFA分野で世界トップクラスのメーカーとして各国の「ものづくり」を支えています。また、FA技術とIT技術を活用し、開発・生産・保守のトータルコストを削減し、一歩先のものづくりを支援するソリューション「e-F@ctory」も展開しています。

主な製品 ■シーケンサー ■レーザー加工機 ■サーボ ■産業用ロボット  
■省エネ支援システム ■配線用遮断器

## 公共

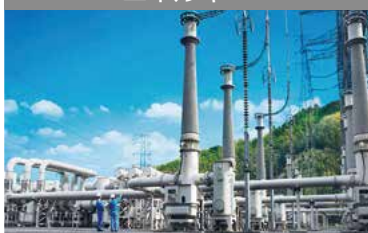


もっと良い未来のために、確かな生活基盤を最先端の技術で。

高度な社会インフラに貢献するライフラインや公共施設・サービスなど、生活基盤を築く数々の分野で事業を展開しています。水環境システムを始め、安心・安全な社会づくりへの貢献、そして映像エンターテインメントの提供まで、社会が必要とするものをつくり出し、暮らしの質を高めていきます。

主な製品 ■水処理技術 ■航空管制システム ■大型映像装置 ■防災情報システム

## エネルギー



川上から川下まで、国内屈指の総合力で電力インフラを構築。

創業以来携わってきた伝統あるビジネスであり、発電から送変電、配電に至るすべてのフェーズにおいて、世界各国の電力インフラの発展に大きな役割を果たしてきました。グリーンエネルギーの需要が高まる中、スマートグリッド関連事業など、新たなエネルギービジネスも積極的に展開しています。

主な製品 ■タービン発電機 ■保護、制御システム ■真空遮断器 ■変圧器  
■受変電システム ■系統安定化システム ■開閉装置 ■太陽光発電システム  
■電力変換機器・システム ■超電導応用製品

## 交通



車両用機器・システムをトータルで提供する「鉄道の三菱電機」。

1964年の開通以来、すべての新幹線において車両・地上システムの開発に携わってきた技術力。そして、様々な分野で培ってきた電力や通信などの技術を集結し、省エネにも貢献しています。既に世界30カ国以上で三菱電機の製品が採用されています。これからも省エネで安全、快適な国内外の鉄道を支えていきます。

主な製品 ■車両用主回路システム ■車両用空調装置 ■車両情報管理装置 ■電力管理システム  
■トレインビジョン ■列車運行管理システム

## 自動車機器



多彩な製品群で、モータリゼーションの発展を下支えする。

世界で初めて製品化した電動パワーステアリングを始めとして、世界トップクラスのシェアを誇る数多くの製品で安全・安心・快適なクルマづくりを支えています。電気自動車やハイブリッド車の普及、自動運転の実現など、変わり続ける時代のニーズを様々な視点からとらえ、誰もが安全に安心して利用できるクルマづくりに貢献していきます。

主な製品 ■エンジン電装品 ■電動パワーステアリングシステム ■エンジン制御製品  
■カーマルチメディア製品 ■電動化関連製品 ■予防安全製品

## 宇宙



### 宇宙という広大なビジネスフィールドで先端技術が活きる。

これまでに世界各国で570機以上の人工衛星開発に参加しています。宇宙環境を再現できる試験設備を備え、人工衛星の設計・製造・試験を一貫して自社内で行うことができます。また、ハワイの「すばる望遠鏡」やチリの「ALMA望遠鏡」など、大型望遠鏡の分野でも世界をリードしています。

主な製品 ■人工衛星 ■大型望遠鏡 ■人工衛星搭載機器

## 通信



### 情報を「送る」技術で、快適なコミュニケーションを実現。

インターネットなどの通信インフラ上で、高画質動画コンテンツなど大容量データを高速でやりとりするための光通信システム製品を手がけています。また、安心・安全な社会の実現に貢献する映像セキュリティシステムや、エネルギーの最適利用に向けたスマートメーター用無線通信システムなど、多彩な製品を通じて豊かな社会づくりを支えます。

主な製品 ■光通信システム ■無線通信システム ■映像セキュリティシステム

## 半導体・電子デバイス



### より豊かな社会を支えるキーデバイスを提供。最先端技術に挑戦。

家電から宇宙まで、機器のキーデバイスとして活躍し、我々の暮らしを豊かにする半導体・デバイスを提供しています。特にパワー半導体デバイスは家電製品や産業機器、電気自動車、鉄道などの電力制御やモーター制御、風力発電や太陽光発電などあらゆる分野で活躍。その性能によって各分野で高い省エネ効果を生み出しています。

主な製品 ■パワー半導体モジュール ■光デバイス ■高周波デバイス ■TFT液晶モジュール

## 空調・冷熱



### 家庭からビジネスまで暮らしのあらゆるシーンで快適と省エネ性の両立を求めて。

ルームエアコン「霧ヶ峰」に代表される住宅用から、店舗、オフィス、ビル用まで幅広く快適で環境に配慮した省エネ効率の高い空調機を日本国内をはじめ世界へ提供しています。一方で冷凍・冷蔵などの低温分野においても、倉庫・食品加工場やアイススケートリンクへ冷凍機や除湿機など、流通から産業分野まで幅広い製品・システムを提供しています。

主な製品 ■ルームエアコン ■業務用空調機 ■低温機器・給湯機・産業冷熱製品

## ホームエレクトロニクス



### お客様の快適な生活の実現のために。

キッチン・リビング・寝室等、幅広い生活シーンでお使いいただける家庭電器商品を提供しています。それぞれのシーンでお客様の期待にこたえ、更に期待を超える商品を提供することでお客様の快適な生活を実現していきます。

主な製品 ■液晶テレビ ■冷蔵庫 ■掃除機 ■ジャー炊飯器

## ITソリューション



### 暮らしのあらゆる場面に、ITで快適・安心・発展を提供。

金融機関や製造現場、社会インフラ（交通・航空・空港・電力）、デベロッパーなど幅広い分野において、暗号化を始めとするセキュリティ技術やIoT技術、及びクラウド基盤の活用により、豊かな暮らしと社会を支えるITソリューションを提供しています。

主な製品 ■ターミナルレーダー情報処理システム ■空港旅客案内情報システム  
■大規模ネットワークシステム ■大規模セキュリティシステム



## 社長メッセージ



「活力とゆとりある社会の実現」に貢献し、  
持続的な成長を目指します。

### 企業活動を通じて、 活力とゆとりある社会を実現するために

三菱電機グループは創立以来、主に製品やサービスの提供により社会に貢献してきました。

昨今の社会を見渡すと変化のスピードが速まり、気候変動や海洋プラスチックなどの環境問題、労働問題や人権問題など社会課題も多様化しています。グループ内外の力を結集し、さまざまな製品・技術・サービスを通じて社会課題の解決に貢献すること、これこそが私たちの存在意義であり、企業理念にある「活力とゆとりある社会の実現」に貢献することと考えます。

人々が重視する価値観が持続可能性や環境への配慮へ変わってきており、世界共通の目標であるSDGs\*（持続可能な開発目標）が策定されたことで、企業への社会課題の解決への期待がより強まっていることを実感しています。多くのステークホルダーから認められ続けるためには、三菱電機グループもしっかりと社会からの期待に応えていかなければなりません。

そうした思いから、三菱電機グループは、国際的な規範に基づいたCSR活動を推進するため、2018年5月に「国連グローバル・コンパクト」に署名しました。さらに、環境問題に対して長期的に取り組むべく、2050年に向けた「環境ビジョン2050」を策定し、「大気、大地、水を守り、心と技術で未来へつなぐ」ことを宣言しました。今後は、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）の提言にも対応していきます。

私たちがこれらに対応する理由は、SDGsに掲げられた「誰一人として取り残さない」という考えを支持しているからです。「持続可能性」と

「安心・安全・快適性」が両立する社会の実現に向け、社会、顧客、株主、従業員をはじめ、三菱電機グループに関わるすべての皆様にご満足いただき、同時に質のよい成長を実現していきたいと考えています。

※SDGs(Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)は、2015年に国連総会で採択された、2030年に向けた人、地球及び繁栄のための行動計画

### SDGsの課題解決に寄与する取組

三菱電機グループは、すべての企業活動を通じてSDGsの17の目標の達成に貢献します。中でも、総合電機メーカーとしての強みを発揮できる「目標7:エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、「目標11:住み続けられるまちづくりを」、「目標13:気候変動に具体的な対策を」については、技術シナジー・事業シナジー等を通じて価値を創出し、重点的に取り組んでいきます。これらは、三菱電機グループが定めたCSRの4つの重要課題の1つ目「持続可能な社会の実現」、2つ目「安心・安全・快適性の提供」に深く関わるものです。

エネルギーをめぐるのは、太陽光発電や風力発電などの電力を最大限に活用し、地域の基本電源とすることが求められており、送配電網の安定化やエネルギーを柔軟に活用するための機器を供給するほか、AIによるデータ解析技術を高めて発電をより効率化していきます。あわせて、製品使用時のCO<sub>2</sub>排出量削減を推進し、気候変動対策にも貢献します。

まちづくりについては、社会インフラ事業を通じて貢献しています。例えば、空港周辺の風速や風向きを測定する「空港気象ドップラーライダー」をグローバル展開し、航空機の安全な離着陸を支え

ています。また、災害への備えとして、カメラによって河川の監視をする「画像式水位計測システム」によって降雨による河川の氾濫状況を把握するほか、「レーダーによる津波多波面検出技術」によって沿岸地域の防災・減災に貢献すべく、技術の実用化を目指しています。災害の発生を完全に防ぐことは困難ですが、製品や技術によって災害の発生を予測し、被害を最小化できると考えています。

## CSRの重要課題を着実に推進

3つ目の重要課題「人権の尊重と多様な人材の活躍」も極めて重要です。人権対応では、2017年に「人権の尊重に関する方針」を定めて取組を強化してきました。今後はグループ内だけでなく、サプライチェーンを含めて、三菱電機グループのものづくりの過程で人権侵害が発生していないかを確認していく必要があります。

女性や外国人の積極的な活用は今後も継続していきます。単に人材不足を補うためではなく、本質的に「多様な人材の活躍」を考えなければなりません。特に、グローバルで事業を拡大している中、現地採用した人材に活躍してもらうことは重要です。そのため、世界のどこで採用された人材でも、三菱電機グループの企業文化を共有して活躍してもらえよう、研修プログラムを用意し、ステップアップの道を整えています。

「働き方改革」も重視します。非常に残念なことですが、過去に長時間労働に起因する労働災害を起こしてしまいました。このようなことを再び起こしてはなりません。労働時間の削減は確実に進みましたが、本当の意味での業務効率化や仕事の質を変えるところまでには、残念ながらまだ至っていないように感じています。2019年度は、ITツールや在宅勤務制度の活用でフレキシブルな働き方をさらに推進するとともに、好事例の水平展開を加速させ、仕事の中身の



質を変えて、誰もがいきいきと働くという、本来の「働き方改革」を進めていきたいと考えています。

4つ目の重要課題「コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化」は企業の根幹を成すものです。コーポレート・ガバナンスについては、取締役会の経営監督機能の一層の向上のため、社外取締役への情報提供と意見交換の場の設置や取締役会レビューの継続的な実施等により、取締役会の実効性の更なる向上に努めています。中でも社外取締役とは、成長戦略などを含めた全社的な課題や個別事業戦略等、今後三菱電機グループが取り組むべき具体的なテーマを取り上げて議論を行っており、その多様な知見や経験を活かした有益な意見をいただいています。

2018年には、グループ会社にて、お客様と交わした契約仕様を満たさない製品が出荷されていたことが判明いたしました。三菱電機グループが徹底してきた倫理・遵法への取組が、まだ浸透していなかったことを重く受け止めており、トップダウンのメッセージの発信も含め、地道な浸透策を継続していきます。一方で、その事象を発見することができなかったチェック機能の問題でもあり、再発防止に取り組んでまいります。

## 従業員とともに、持続的成長を目指す

三菱電機グループは「バランス経営」を経営方針に掲げていますが、「バランス」を財務面のみで捉えるのでは不十分です。財務数値を企業の「身長・体重」に、CSRを「人格」に例えると、その2つの面で、世の中から認めていただくことが大切だと考えています。利益を上げて納税し、雇用を生み出すことは企業として不可欠ではあるものの、今後企業価値を向上させるには、社会への貢献と自社の成長を両立させる視点が必要であり、社会課題解決を通じた持続的成長が求められます。

企業理念にある「活力とゆとりある社会への貢献」を支えるのは、従業員一人ひとりです。企業として社会課題を解決するには、まずは従業員が社会課題について理解しなければなりません。その上で、一人ひとりがどうすれば社会課題を解決できるのか真剣に考えることがイノベーションや事業につながります。一方で、社会全体の課題だけでなく、従業員にはボランティア活動等を通じて地域の課題解決にも貢献して欲しいと考えています。

三菱電機は、2020年度に創立100周年を迎えます。2019年度は、2020年度以降にどのような方向に向かっていくか、どのような会社になりたいかを描く年だとも考えており、方向性が決まり次第、従業員とも共有します。従業員が自分自身を成長させ、夢を持っていきいきと働けるよう、人を大切にする風土を醸成し、グループの総力を結集し、社会課題解決を通じた持続的成長を目指して共に進んでいきたいと考えています。

執行役社長

杉山 武史

# 価値創出活動

三菱電機グループは、環境問題や資源・エネルギー問題をはじめ多様化する社会課題に対して、製品・システム・サービスの提供等により解決に取り組み、「持続可能性と安心・安全・快適性の両立」をはじめとする価値創出を推進することを通じて、グループ全体で持続的な成長を追求いたします。

## 理念

### 企業理念

三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する。

### 7つの行動指針

**信頼** 社会・顧客・株主・社員・取引先等との高い信頼関係を確立する。

**品質** 最良の製品・サービス、最高の品質の提供を目指す。

**技術** 研究開発・技術革新を推進し、新しいマーケットを開拓する。

**貢献** グローバル企業として、地域、社会の発展に貢献する。

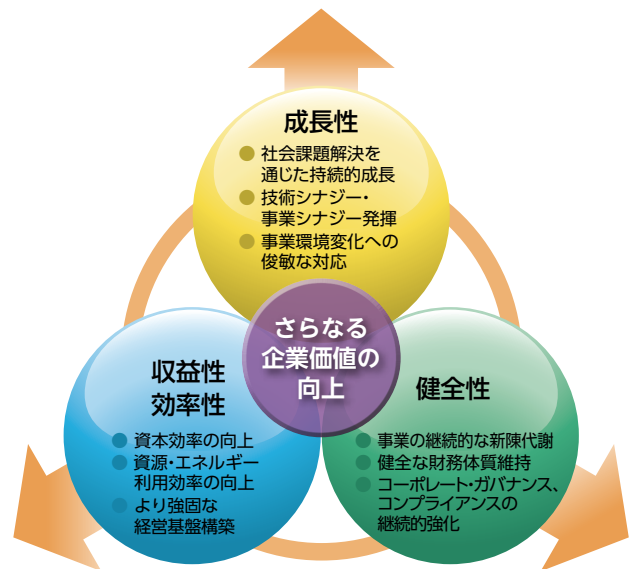
**遵法** 全ての企業行動において規範を遵守する。

**環境** 自然を尊び、環境の保全と向上に努める。

**発展** 適正な利益を確保し、企業発展の基盤を構築する。

## 経営方針・強み

### バランス経営



### 4つの満足

社会への貢献	よい製品・サービスの提供	企業価値の向上	働きがいのある職場づくり
社会の満足	顧客の満足	株主の満足	従業員の満足

### 変革への挑戦

変革を通して、新たな価値の創出を。

### もう一段高いレベルの成長

2020年度成長目標	継続的に達成すべき経営指標
・ 連結売上高 … 5兆円以上	・ ROE …………… 10%以上
・ 営業利益率 … 8%以上	・ 借入金比率 … 15%以下

### 三菱電機グループの強み

- ・ 制御やパワーエレクトロニクスなどの広範にわたる技術資産
- ・ 事業特性の異なる複数の事業群による事業活動の展開
- ・ 生産、品質管理、販売、サービス等の全ての現場に定着した改善文化





また、こうした価値創出への取組を中心として、すべての企業活動を通じてグループの持続的成長を追求することにより、世界共通の目標であるSDGsの達成にも貢献してまいります。

## 全ての企業活動を通じた貢献



### 事業を支える取組



環境

社会

ガバナンス



## 価値創出による貢献

### 重点的に取り組むSDGs



### 4つの領域



### 価値創出への取組

グループ内外の力を結集した  
統合ソリューション提供

事業モデルの変革

100年培った経営基盤の強化 ×  
あらゆる連携の強化  
=技術シナジー・事業シナジーの進化

※100年培った経営基盤：顧客との繋がりが、技術、人材、製品、企業文化等

### CSRの重要課題



人権の尊重と  
多様な人材の活躍



持続可能な社会の実現



コーポレート・ガバナンス、  
コンプライアンスの  
継続的強化



安心・安全・快適性の提供



Society 5.0

— ともに創造する未来 —

持続的成長

多様化する社会課題

# CSRマネジメント

## マネジメント

### CSRに対する考え方

三菱電機グループでは、CSRの取組を企業経営の基本を成すものと位置付け、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針として推進しています。特に倫理・遵法に関する取組については、教育の充実や内部統制の強化など、グループを挙げて対策を徹底しており、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなどについても、積極的な取組を展開しています。

### 三菱電機のステークホルダー

三菱電機グループが持続的に成長していくためには、様々なステークホルダーとコミュニケーションを取ることが必要です。各ステークホルダーからの期待や要請・ご意見を企業活動に反映させ、社会に対してマイナスの影響を減らし、プラスの影響を増やしていくことが、三菱電機グループにとってのCSRです。



三菱電機グループのステークホルダー

ステークホルダーとのコミュニケーションについては、経営方針として「4つの満足」を掲げており、社会・顧客・株主・従業員などすべてのステークホルダーに満足いただけるよう、しっかりと取り組みます。

#### 4つの満足

社会への貢献 社会の満足	よい製品・サービスの提供 顧客の満足
企業価値の向上 株主の満足	働きがいのある職場づくり 従業員の満足

4つの満足

### ステークホルダーとのコミュニケーション

#### 有識者とのダイアログ開催



左から、総務部長 黄榮 満治、常務執行役 原田 真治、執行役社長 杉山 武史、(株)大和総研 研究主幹/日本サステナブル投資フォーラム共同代表理事 河口 真理子氏、Sustainavision Ltd.代表取締役 下田屋 毅氏 (2019年3月開催当時)

#### 有識者ヒアリングの実施

「三菱電機グループ CSRレポート2018」を読んで

- First Penguin, Founder & Chief  
ウォン・ライヨン氏
- InterPraxis Consulting, Director, Consultant  
デービッド・シンプソン氏

環境ビジョン策定プロセスにおいていただいたご意見

- (株)大和総研 研究主幹  
日本サステナブル投資フォーラム共同代表理事  
河口 真理子氏
- メディアの方、学生 他

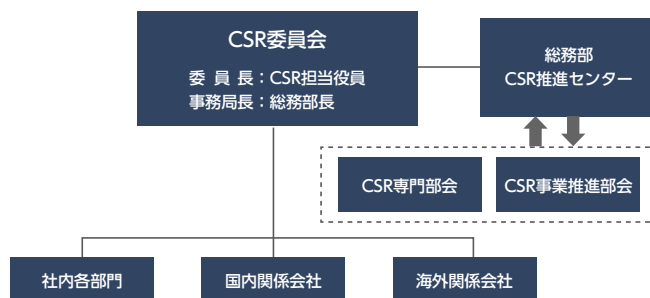


## CSR推進体制

三菱電機グループのCSRの取組は、三菱電機の執行役会議から委嘱を受けたCSR委員会で方針・計画を決定しています。CSR委員会は三菱電機の管理部門長（経営企画室や人事部などの環境、社会、ガバナンス担当の19名）から構成されており、前年度の活動実績の把握や今後の活動計画の決定、法改正への対応など、三菱電機グループ横断的な視点から議論を行っています。

具体的な活動については、CSRに関する活動は企業経営そのものであるとの認識から、倫理・遵法、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなど、それぞれを職掌する部門が三菱電機グループに共通するCSR方針に基づき、責任を持って推進しています。

CSR委員会を原則として年に1回開催しているほか、CSR委員会で定めた方針・計画を共有・実行する場として、CSR専門部会、CSR事業推進部会を開催しており、コミュニケーションを図りながら活動を推進しています。



CSR推進体制

### CSR委員会の主な議題（2019年4月開催）

- 前年度の実績報告と今年度の活動予定
- SDGs（持続可能な開発目標）への対応
- ESG（環境・社会・ガバナンス）投資を考慮した情報開示の一層の拡充
- 人権の取組
- サプライチェーンマネジメント
- 長期環境ビジョン



CSR委員会

## CSR専門部会の開催

CSRに特に関連性の高い19部門の担当者が集まり、定期的に会議を開催しています。三菱電機グループのCSRの重要課題や今後の取組の活性化、法規制やCSRの国際規格への対応について、情報共有して理解を深めるとともに、コミュニケーション・合意を図りながら議論を重ねています。

2018年度は会議を4回開催し、CSRの重要課題の取組項目の実績確認と目標の見直し、SDGsへの対応を中心に議論を重ねたほか、関連部門によるワーキンググループを構築し、国際的な人権の取組への対応について検討しました。



CSR専門部会

## CSR事業推進部会の開催

すべての事業本部の担当者が集まり、定期的に会議を開催しています。「事業を通じた社会への貢献」を主題として、三菱電機グループのCSRについての情報共有や解決すべき社会課題について議論を重ねています。

2018年度は4回開催し、主にSDGsに対して、どのように事業を通じて貢献できるか議論しました。



CSR事業推進部会



## CSRの重要課題とSDGsマネジメント

### CSRの重要課題





三菱電機グループは、GRI(Global Reporting Initiative)\*からの要請や、社会動向及び事業環境に鑑み、CSRをより経営と一体化し、長期的に推進していくため、CSRの重要課題(マテリアリティ)、取組項目、目標/取組指標(KPI)を2015年度に特定しました。

CSRの重要課題(マテリアリティ)、取組項目、目標/取組指標(KPI)についてPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルによる継続的な改善活動を実施します。

\*企業のサステナビリティ報告に関する世界共通のガイドラインを提唱する国際団体

#### CSRの重要課題

#### 重要とした理由

 <p><b>持続可能な社会の実現</b></p>	<p>気候変動をはじめとする環境問題、資源・エネルギー問題は、世界的な課題です。三菱電機グループは、持続可能な社会の実現を目指し、これらの解決に貢献していきます。</p>
 <p><b>安心・安全・快適性の提供</b></p>	<p>都市化などに伴い様々な課題が顕在化しつつあります。三菱電機グループは、まちづくりを中心に課題解決に貢献し、安心・安全・快適性を提供していきます。</p>
 <p><b>人権の尊重と多様な人材の活躍</b></p>	<p>人権やダイバーシティは、世界的な課題です。三菱電機グループは、グローバル企業としてこれらの課題に対応します。また、ダイバーシティは、三菱電機グループの強みの源泉であるイノベーション創出のためにも重要です。</p>
 <p><b>コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化</b></p>	<p>コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスは、会社が存続するための基本です。三菱電機グループは、これらを継続的に強化していきます。</p>

### 三菱電機グループとSDGs

2015年に国連総会でSDGs(持続可能な開発目標)が採択されました。三菱電機グループはこれを社会から求められる重要な課題と捉えています。

「三菱電機グループは、技術、サービス、創造力の向上を図り、活力とゆとりある社会の実現に貢献する」という企業理念のもと、社会課題の解決に貢献することを目指しています。これは、世界共通の目標であるSDGsが目指すものと合致していると考えています。

三菱電機グループは、社会課題の解決に向け、多くの事業や、環境・社会・ガバナンス(ESG)などの全ての企業活動を通じてSDGsの17の目標の達成に貢献します。



#### ※SDGs (Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標)

2001年に策定されたミレニアム開発目標(Millennium Development Goals:MDGs)の後継として、2015年9月の国連総会で採択された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するために、17のゴール・169のターゲットからなるSDGs(持続可能な開発目標)を掲げています。SDGsにおいては、日本も含む先進国の在り方にも変化を求めていること、また、その取組の過程で“地球上の誰一人として取り残さない(no one will be left behind)”ことを誓っていることが特徴です。



## 重点的に取り組むSDGs

2018年度には、更にSDGsに貢献するため、「重点的に取り組むSDGs」を定めました。

- 目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに
  - 目標11：住み続けられるまちづくりを
  - 目標13：気候変動に具体的な対策を
- 総合電機メーカーとしての強みが発揮できるこれらの目標に対し、

価値創出への取組をより一層推進することで、SDGsの目標の達成に具体的に貢献します。

今後も三菱電機グループはSDGsの考え方を経営に統合し、重点的に取り組むSDGsに対してCSRの重要課題の「持続可能な社会の実現」「安心・安全・快適性の提供」の取組を通じて貢献していきます。

### CSRの重要課題



CSRの重要課題とSDGs

### SDGsへの貢献



## SDGsへの取組の進捗

三菱電機グループではSDGsに関する従業員一人ひとりの理解を深めるべく、SDGsの採択の背景や個々の目標について、様々な形で浸透策を実施しています。CSR委員会、CSR専門部会、CSR事業推進部会ではSDGsに対して、三菱電機グループとしてどのように貢献できるか、自社の取組を整理することから検討を開始し、

2018年度に重点的に取り組むSDGsを決定しました。

世界共通の目標達成に向けて、引き続きマネジメントを強化するとともに、社内浸透を図り、SDGsの考え方を経営に統合していきます。

### これまでの主なSDGsに関する取組

- グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン有馬利男氏による役員向け講演会(2017年度)
- 経営戦略への反映(2017年度、2018年度、2019年度)
- 研究開発部門での講演会(2017年度)
- 社内報を通じた理解促進(2017年度、2018年度、2019年度)
- CSR担当者研修での推進者への教育(2017年度、2018年度)
- SDGs研修(2018年度)



SDGs研修

## 17の目標への取組

三菱電機グループは、全ての企業活動を通じて、SDGsの17の目標の達成に貢献します。特に、身近な家電製品から国家規模のプロジェクトや人工衛星まで、技術・製品・サービスを多岐にわたって展開している総合電機メーカーとして、製品・サービスを通じて貢献できる面は大きいと考えています。

<p><b>1 貧困をなくそう</b></p>  <p><b>雇用の創出と貧困の解消</b></p> <p>事業のグローバル展開による雇用創出、社会インフラの整備や社会貢献活動等を通じて、貧困解消に取り組んでいます。</p>	<p><b>2 飢餓をゼロに</b></p>  <p><b>農業の支援と冷凍・冷蔵技術による食糧問題への貢献</b></p> <p>ICTや測位衛星によるIT農業の支援、FAによる食品工場の生産性向上、食品の冷凍・冷蔵技術等によって、食糧問題の解決に貢献しています。</p>	<p><b>3 すべての人に健康と福祉を</b></p>  <p><b>健康的な生活の確保と福祉の推進</b></p> <p>交通事故の削減に貢献する安全運転支援システムや、空調事業を通じた快適な空気環境の提供等によって、健康と福祉の向上へ貢献しています。</p>	<p><b>4 質の高い教育をみんなに</b></p>  <p><b>途上国への技術支援と社会貢献活動による次世代の育成</b></p> <p>途上国への技術支援や通信・IT技術による遠隔教育支援への寄与に加えて、社会貢献活動による次世代育成等に貢献しています。</p>
<p><b>5 ジェンダー平等を実現しよう</b></p>  <p><b>女性活躍のサポートと推進</b></p> <p>ICTサービスや家電製品の提供を通じた女性の社会進出のサポートに加えて、グループ内にて女性の更なる活躍を推進しています。</p>	<p><b>6 安全な水とトイレを世界中に</b></p>  <p><b>水の利用可能性の拡大と持続可能な管理の提供</b></p> <p>水処理・水の浄化に関する技術を用いて、安全な水を供給するための技術やシステムを提供しています。</p>	<p><b>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</b></p>  <p><b>持続可能なエネルギーの確保と利用拡大</b></p> <p>省エネ・創エネやスマート社会の実現に貢献する技術やシステムの開発を進めるとともに、これらの技術・製品・サービスの普及に取り組んでいます。</p>	<p><b>8 働きがいも経済成長も</b></p>  <p><b>FAやAI技術による生産性の向上と働きやすい職場環境の整備</b></p> <p>FAやAI技術による生産性の向上への貢献や、グループ内における働きやすい職場環境整備に取り組んでいます。</p>
<p><b>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</b></p>  <p><b>持続可能な産業化の促進と技術革新の拡大</b></p> <p>FAによって「ものづくり」を支えるとともに、技術革新を進めること等で、産業分野の発展へ貢献しています。</p>	<p><b>10 人や国の不平等をなくそう</b></p>  <p><b>人権の尊重と差別の撲滅</b></p> <p>ステークホルダーと協力し、人権が尊重され、差別のない社会の実現に貢献しています。</p>	<p><b>11 住み続けられるまちづくりを</b></p>  <p><b>安心・安全・快適なくらしの実現</b></p> <p>インフラ、家電製品などを通じて、人々のくらしに安心・安全・快適性を提供しています。</p>	<p><b>12 つくる責任 つかう責任</b></p>  <p><b>持続可能な生産消費形態の確保</b></p> <p>メーカーの責任として、製品製造時に使用する資源量の削減、使用済み製品のリサイクルに取り組むほか、廃棄物最終処分量の低減、グリーン調達を推進しています。</p>
<p><b>13 気候変動に具体的な対策を</b></p>  <p><b>気候変動及びその影響の軽減</b></p> <p>CO<sub>2</sub>を含む温室効果ガスの排出量をバリューチェーン全体で把握し、目標を立てて削減を図っています。</p>	<p><b>14 海の豊かさを守ろう</b> <b>15 陸の豊かさも守ろう</b></p>   <p><b>生態系の保護・回復、生物多様性の損失防止</b></p> <p>海洋や森林の状況を伝える観測衛星を開発・提供しているほか、三菱電機の各事業所で、周辺環境との共生を図る取組も進めています。</p>	<p><b>16 平和と公正をすべての人に</b></p>  <p><b>公正で平和な社会の実現</b></p> <p>法や国際規範に基づき、サプライチェーンと共に、グローバルで人権・労働・環境・腐敗防止等の改善に取り組んでいます。</p>	<p><b>17 パートナリシップで目標を達成しよう</b></p>  <p><b>パートナーシップによるSDGsへの貢献</b></p> <p>行政、大学、研究機関、企業、NGO等とのオープンイノベーションなどによるパートナーシップを通じ、SDGsの達成に貢献しています。</p>





## 事業を通じた社会への貢献 取組一覧

事業本部名	リスク・機会を認識・評価している社会課題	重点的に取り組む SDGs
社会システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水の適正利用</li> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● 気候変動への対応</li> <li>● 大気、水、土壌汚染対策</li> <li>● 廃棄物削減・管理</li> </ul>	    
電力・産業システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● クリーンエネルギーの導入</li> <li>● 持続的な資源利用・開発</li> <li>● 化学物質の適正管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> <li>● 大気、大地、土壌汚染対策</li> </ul>	    
ビルシステム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● 革新的なインフラの開発と普及</li> <li>● 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり</li> <li>● 廃棄物削減</li> </ul>	   
電子システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● クリーンエネルギーの導入</li> <li>● 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり</li> <li>● 気候変動への対応</li> <li>● 森林破壊の防止</li> </ul>	 
通信システム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続的な資源利用・開発</li> <li>● 廃棄物削減・管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> </ul>	    
リビング・デジタルメディア事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● クリーンエネルギーの導入</li> <li>● 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり</li> <li>● 持続的な資源利用・開発</li> <li>● 化学物質の適正管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> </ul>	   
FAシステム事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続的な資源利用・開発</li> <li>● 化学物質の適正管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> <li>● 大気、水、土壌汚染対策</li> <li>● 労働力人口減少への対応</li> </ul>	   
自動車機器事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 健康・福祉の向上</li> <li>● 革新的なインフラの開発と普及</li> <li>● 安心・安全・快適で持続可能なまちづくり</li> <li>● 化学物質の適正管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> </ul>	    
半導体・デバイス事業本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 水の適正使用</li> <li>● 化学物質の適正管理</li> <li>● 気候変動への対応</li> <li>● 生物多様性保全</li> </ul>	   
インフォメーションシステム事業推進本部	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーの最適な利用</li> <li>● クリーンエネルギーの導入</li> <li>● 廃棄物削減・管理</li> <li>● 持続的な資源利用・開発</li> <li>● 気候変動への対応</li> </ul>	    

## CSRの重要課題に関するマネジメント状況

2015年度に三菱電機グループのCSRの重要課題(マテリアリティ)、取組項目、目標/取組指標(KPI)を特定し、2016年度より継続的に実績の開示及び各目標/KPIの見直しも行っています。

4つの重要課題	取組項目
 <p><b>持続可能な社会の実現</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [環境ビジョン2021]*1の実現                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低炭素社会の実現への貢献</li> <li>・ 循環型社会の形成への貢献</li> <li>・ 自然共生社会の実現への貢献</li> </ul> </li> <li>■ 製品・サービスを通じた貢献</li> </ul>
 <p><b>安心・安全・ 快適性の提供</b></p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ お客様の安全を第一とした製品づくり</li> <li>■ お客様の声を反映した製品・サービスの提供</li> <li>■ お客様を最優先とする品質マインド教育の継続的实施</li> <li>■ 製品・サービスを通じた貢献</li> </ul>
 <p><b>人権の尊重と 多様な人材の活躍</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国際的な規範に則った人権の取組の推進</li> <li>■ 仕事と生活を両立して生き生きと働ける職場環境の実現</li> <li>■ 多様な人材の採用・活用によるダイバーシティの推進</li> <li>■ 労働安全衛生と心身の健康の確保</li> </ul>
 <p><b>コーポレート・ガバナンス、 コンプライアンスの継続的強化</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ステークホルダーとの積極的な対話</li> <li>■ 健全なチェック機能が働く企業経営</li> <li>■ コンプライアンス研修の継続的实施</li> <li>■ 公正な競争(独占禁止法違反防止)の推進</li> <li>■ 汚職防止(贈収賄防止)の徹底</li> <li>■ CSR調達(環境、品質、人権、コンプライアンス等)の推進</li> </ul>

※1: 第9次環境計画(2018年~2020年度)の目標  
 ※2: COP10で合意された、生物多様性の損失を止めるための20の個別目標  
 ※3: 100万時間当たりの休業災害件数



三菱電機グループは、「企業理念」及び「7つの行動指針」をCSRの基本方針とし、企業理念にある「活力とゆとりある社会の実現」に向け、4つの重要課題に対する取組をサプライチェーンと共に推進します。

2019年度の目標/取組指標 (KPI) 【 】内は定量目標	範 囲
・生産時のCO <sub>2</sub> 排出量削減の推進【2020年度に147万トン以下】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・製品使用時のCO <sub>2</sub> 排出量削減の推進【2020年度に2000年度比で35%削減】	
・資源投入量の削減の推進【2020年度に2000年度比で40%削減】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・廃棄物最終処分率の改善の推進 【2020年度まで三菱電機と国内関係会社で0.1%未満を維持、海外関係会社で0.5%未満に削減】	
・水使用量の売上高原単位の向上【2020年度に2010年度比で年率1%改善】	
・野外教室および里山保全活動の参加者数の増加【2020年度に累計51,000名以上】	
・愛知目標 <sup>*2</sup> に沿った事業所の生物多様性保全活動レベルの向上	三菱電機
・SDGs「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」 「目標13：気候変動に具体的な対策を」に貢献する製品・サービスの提供	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・製品使用時のCO <sub>2</sub> 削減貢献量の維持【2000年度基準で7,000万トン】	
・リスクアセスメントによる安全性の追求【対象家電製品のリスクアセスメント実施100%維持】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・お客様の声を品質に作り込むキーパーソンの育成【2020年度に国内対象部門に対し100%育成】	三菱電機グループ(国内)
・過去重要不具合の真因究明と対策の全社展開	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・品質eラーニングの受講率100%維持【100%維持】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・品質マインド教育内容の拡充	
・SDGs「目標11：住み続けられるまちづくりを」に貢献する製品・サービスの提供	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・継続的な人権研修	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・人権侵害に関する通報制度の充実化	
・新入社員研修、新任管理職研修での人権啓発とハラスメント予防に関する講義実施	
・働き方改革の目的である「仕事と生活のバランスをとりながら、心身の健康を維持しいきいきと働ける職場を実現する」に向けた社員の意識付け、及び「業務スリム化による生産性向上」「成果効率のさらなる追求」「仕事と生活の双方の充実」「職場内コミュニケーションの促進」の4つの視点による取組の継続推進	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・地域・業態に応じた、多様な人材の採用活用によるダイバーシティの推進	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・法定雇用率を上回る障がい者雇用の推進【2.2%以上】	三菱電機グループ(国内)
・技術系新卒採用に占める女性比率の向上【将来目標20%】	三菱電機
・海外OJT研修、海外語学研修等の計画的派遣【180名以上/年】	
・安全管理活動や健康づくり活動の推進	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・安全衛生教育の推進と、同業種平均を下回る労働災害度数率 <sup>*3</sup> の維持【0.45以下】	三菱電機
・三菱電機グループヘルスプラン21(MHP21)活動ステージⅢによる生活習慣改善と健康経営企業の実現推進 【適正体重維持者の割合3.0%以上、運動習慣者の割合39.0%以上、喫煙者割合20.0%以下、1日3回以上の歯の手入れ者の割合25.0%以上、睡眠による休養が取れている者の割合85%以上】	三菱電機グループ(国内)
・CSRをテーマにしたステークホルダーとの対話の年1回以上の実施【1回以上/年】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・株主総会、経営戦略説明会や決算説明会などの各種説明会および個別ミーティングなど、国内外IR活動を通じたステークホルダーとの対話の実施	
・取締役への適時適切な情報提供と、取締役会レビュー及びその分析・評価の実施	三菱電機
・取締役及び執行役に対する就任時の研修、及びその他のコンプライアンス教育や研修の適時適切な実施	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・三菱電機グループの業務の適正を確保するために内部監査を行い、監査担当執行役を通じ、監査結果を定期的に監査委員会へ報告	
・多様な手法を駆使したコンプライアンス教育の継続実施	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・コンプライアンスeラーニングの受講率100%維持【100%維持】	三菱電機
・独占禁止法違反防止施策の定着・徹底：実践的な研修を継続実施、規則・ルールの定着に向けたモニタリングの実施	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・贈賄防止施策の定着徹底：贈賄防止教育の実施、規則・ガイドラインの定着に向けたモニタリングの実施	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・前年未回答のサプライヤー及び当該年度の対象サプライヤーから、CSR調達ガイドラインに対する同意確認書入手【100%】	三菱電機グループ全体(国内、海外)
・協力工場を中心とした重大な人権侵害リスク(外国人労働者に対する強制労働、危険有害労働)の把握	三菱電機グループ(国内)



## 持続可能な社会の実現

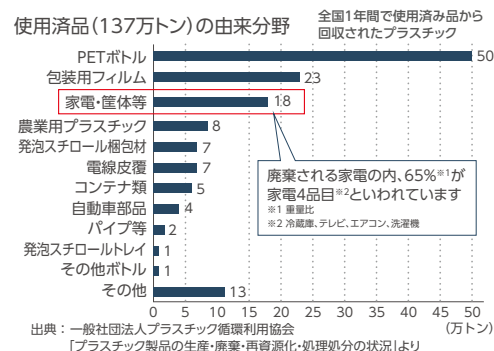
### 使用済み家電のプラスチックを再び家電へ 三菱電機グループの「自己循環リサイクル」の取組

持続可能な社会の実現を目指している三菱電機グループは、環境課題を解決すべく、「循環型社会の形成」を重点的な取組の一つとしています。3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進しており、家電のプラスチックリサイクルについては、事業として取り組んでいます。

#### 国内外で関心が高まる廃プラスチックの課題

天然の有機物とは異なり、分解されずに海にとどまり続ける海洋プラスチックごみが海洋汚染の大きな要因として注目されるなど、廃プラスチックをめぐる問題は国際的に深刻化しています。また、リサイクルされる場合でも、プラスチックは多くの場合、燃料や日用雑貨などへダウングレードされることが大半であり、素材価値を向上させ、より高いレベルで活用していくことが求められています。日本国内の使用済み品から回収されるプラスチックは年間137万トン(2018年度実績)。このうち、家電・筐体等のプラスチックが18万トンにのぼり、大きな割合を占めています\*。

※出典：一般社団法人プラスチック循環利用協会



#### 三菱電機グループの「自己循環リサイクル」とは

日本で2001年に家電リサイクル法が施行される以前の1999年から、三菱電機グループは業界初となる家電リサイクル工場を稼働し、リサイクル事業を推進してきました。2010年からは、使用済み家電から回収したプラスチックを、再び三菱電機の家電に用いる「自己循環リサイクル」を本格化しています。自己循環リサイクルは多様な素材で構成された製品の中から、異物の混じらないプラスチックをいかに多く回収していくかが重要です。

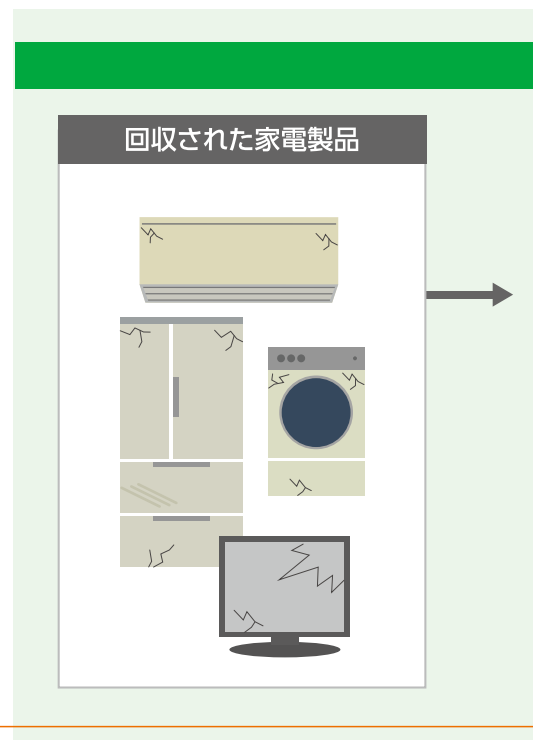
この取組において中心的な役割を担うのが、家電リサイクル工場である株式会社ハイパーサイクルシステムズ(以下、HCS)とプラスチックを選別する株式会社グリーンサイクルシステムズ(以下、GCS)です。使用済み家電は、まずHCSで解体されたのち、機械で破砕。その後GCSに送られ、選別してプラスチックが回収されます。

使用済み家電のプラスチックを、バージン材同等の品質で再生し、再び家電に活用する——HCS、GCS、三菱電機の工場、研究所が連携し、三菱電機グループの自己循環リサイクルへの挑戦が続いています。

#### 家電を解体・破砕し、再生プラスチックの「原料」をつくる ～ハイパーサイクルシステムズ(HCS)の取組

HCSが受け入れる家電等は年間約80万台。解体は、手作業で取り外しやすい部分から進められます。製品ごとに仕様が異なる中、培ったノウハウで、モーターやコンプレッサーなどの大型部品、フロンや水銀などの有害物を、作業員が一つひとつ仕分けしていきます。手解体できない大部分は、破砕機にかけて砕いたのち、磁力などを使い、鉄や銅、アルミニウム等の金属を分離して回収へ。金属回収後に残ったプラスチックは単一ではない上、様々な異物が混じることから「混合プラスチック」と呼ばれ、国内では使い道がなく、多くが輸出されていました。

三菱電機グループは、この混合プラスチックの価値に着目し、HCS独自の微破砕技術により、大きさをそろえて細かく破砕することで高度な選別をしやすい状態にし、再生プラスチックの「原料」として後工程を担うGCSへと送ります。冷蔵庫の野菜ケースやドアポケットは再資源化しやすい単一プラスチックの代表例であり、HCSからリサイクルに回ります。

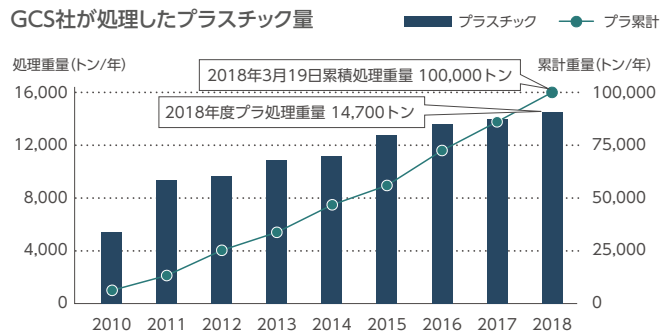




## ● 独自開発の選別技術で混合プラスチックから高純度プラスチックへ選別・回収する ～グリーンサイクルシステムズ(GCS)の取組

GCSの使命は、調達した混合プラスチックから異物を取り除き、種類ごとに選別・回収して、自己循環リサイクル可能な「高純度プラスチック」を低コストで生み出すこと。そのために必要な技術を三菱電機の研究所と協働して次々と生み出してきました。家電に用いられる主要3大プラスチックであるPP(ポリプロピレン)、PS(ポリスチレン)、ABS(アクリロニトリルブタジエンスチレン)の高純度選別は、三菱電機グループが日本で初めて実用化に成功したものです。GCSがこれまでに処理した混合プラスチックは累計10万トン。現在では調達した混合プラスチックの約80%が、バージン材と同等品質の「高純度プラスチック」としてマテリアルリサイクルされています。そのうちの3割が三菱電機の家電製品に使用されて、自己循環リサイクルを実現。残り7割も高い品質を要求される国内の物流や建築資材の材料として様々な場所で活用されています(2018年度実績)。

GCS社が処理したプラスチック量



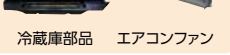
## 三菱電機グループのプラスチックの自己循環

### ハイパーサイクルシステムズ

手分解



手分解で同一素材として  
回収可能なプラスチック製品



冷蔵庫部品

エアコンファン

破砕機



フレーク

家電製品  
の材料に

より複雑な  
選別が必要な  
ものはこちらへ

### グリーンサイクルシステムズ



混合破砕プラスチック



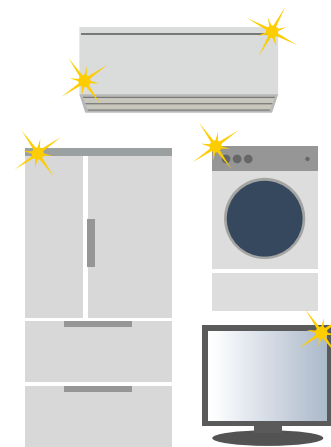
三菱電機独自の選別技術



高純度プラスチック

### 自己循環リサイクル

家電製品



## VOICE (リサイクル事業責任者)



株式会社  
グリーンサイクルシステムズ  
代表取締役社長

坪井 伸之

事業を開始した当初、当社でのプラスチックのマテリアルリサイクル率は約55%でした。高純度を保ちながら回収率を高めるのは難しく、グループ一丸となってあらゆるプロセスを見直し地道な改良を重ね、現在の80%を達成しています。

当社の最大の目標は、素材価値を高め、より多くの再生素材を三菱電機の家電製品に戻し、自己循環比率を高めるとともに、家電製品のコストを削減することです。三菱電機の工場、研究所と連携し、今後も自己循環の規模を継続的に拡大します。バージン材からリサイクル材に置き換えるには、製品の設計変更が求められるなど容易ではありませんが、明確な方針のもと着実に移行が進んだのは、環境課題を本気で考える三菱電機グループならではの活動と思っています。

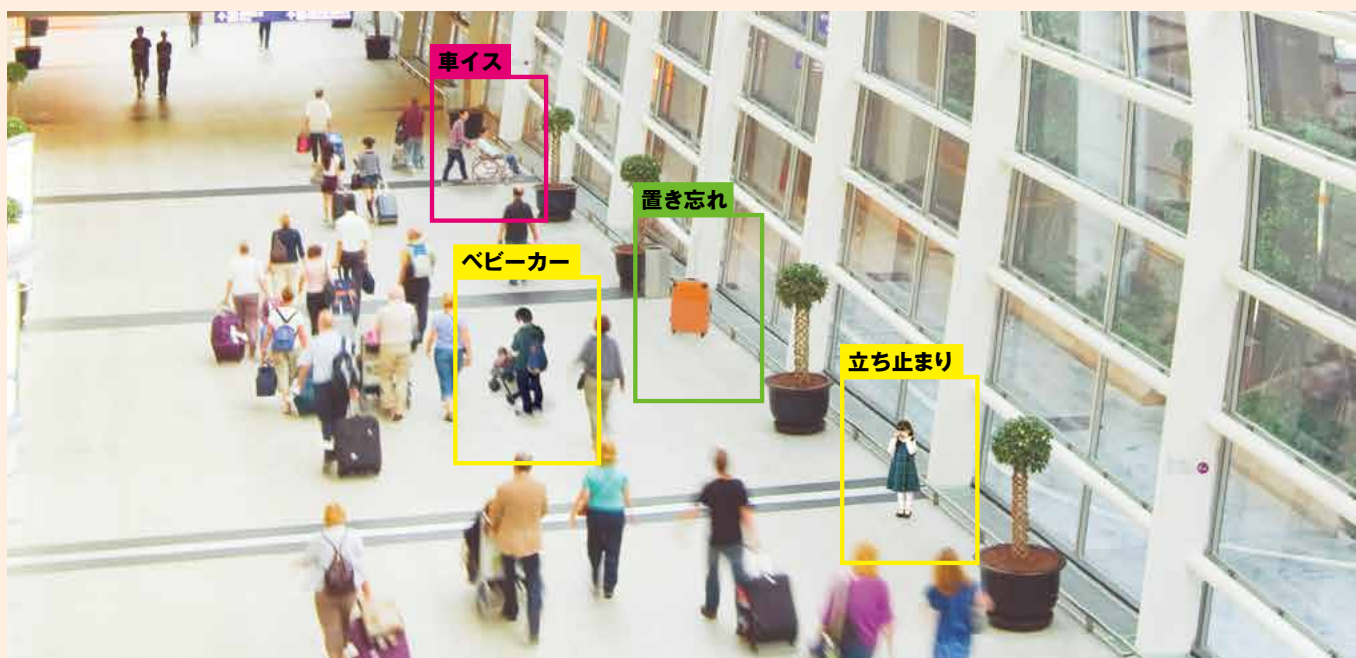
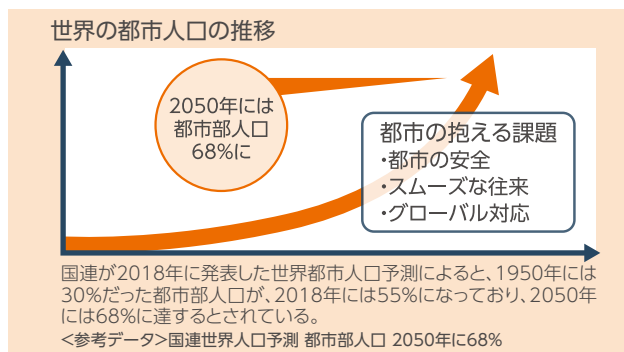
## 安心・安全・快適性の提供

### 人工知能(AI)を活用し、都市の安心・安全・快適性を推進する

三菱電機グループは、人工知能(AI)技術の開発とそれを活かしたソリューションの提供に取り組んでいます。三菱電機のAI技術「Maisart」を活用し、都市や人々の暮らしに安心・安全・快適性を提供します。

#### 都市が抱える課題と、その解決に向けたAIの可能性

グローバル化に伴い世界中から多種多様な人々が集まり、めまぐるしく行き交うのが今日の都市の姿です。都市への人口集中は今後も進み、交通機関や公共施設では渋滞・混雑の深刻化が予測されています。高齢者や、ベビーカー・車いすを利用する人、外国人旅行者など、移動にサポートを必要とする人が増加する一方、労働力人口の減少を背景に、サポートする側では人手不足が広がります。人のスムーズな移動や、いきいきとした暮らしの実現に向け、三菱電機ではAI技術を活用したソリューション開発に取り組んでいます。



#### 施設の利用者をAIで見守り、先回りしたサポートを実現 ～映像解析ソリューション「kizkia(きづきあ)」

「kizkia」とは監視カメラの映像の解析により、特定の「ヒト・モノ・コト」をリアルタイムで自動的に検知し、通知する映像解析ソリューションです。これまで育んできた監視カメラの技術をAI技術で強化するため、2014年より三菱電機のAI技術を採用し、三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社が開発に取り組んできました。

「kizkia」の活用により、例えば、車いすや盲導犬を連れた

人を検知して先回りしてサポートすることや、長時間座り込んだままの人やふらついて歩いている人を早期に保護することが可能になります。また、不審者や危険エリアへの立ち入りを検知することで、犯罪や事故の抑制につながります。

今後も都市では人の往来の増加が見込まれており、交通機関や公共施設での実用化に向けて、各施設の事業者様との連携を加速させています。

## “コンパクトなAI”「Maisart」で安心・安全・快適性に貢献

身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながるIoTの進展により、機器から多くのデータを取得できるようになりました。これにより、データの活用を得意とするAIの実用化が進んでいます。一方で、一般的にAIはサーバー上で膨大なデータを処理し、学習するため、高コストな大規模サーバーやネットワーク設備が必要であることが課題とされ、機器に搭載可能なAIが求められていました。

このような課題に対し、三菱電機は、ディープラーニングの演算量を削減することにより、AIを容易に車載機器やFA機器等の組み込み機器に搭載できる「コンパクトな人工知能」を開発しました。

総合電機メーカーとして多数の機器を保有する強みを生かして、このAI技術を機器・エッジに適用し、更なる価値を創出することでより安心・安全・快適な社会の実現に貢献していきます。



「コンパクトな人工知能(AI)」をはじめとする三菱電機のAI技術。すべての機器をより賢くし、また、エッジコンピューティングを活用することで、安心・安全・快適な社会の実現に貢献していきます。  
Mitsubishi Electric's AI creates the State-of-the-ART in technologyの略です。

### ヒト属性検知

#### 機能

あらかじめ学習した  
ヒトの属性を検知する

#### 属性

行き交う人々の中で  
**ベビーカー／車イスを  
押しているヒト**



### 置き忘れ検知

#### 機能

一定時間以上  
同じ場所に置かれている  
モノを検知する

#### 属性

さっきまで無かったのに  
**ヒトに  
置き去られたモノ**



### ふらつき検知

#### 機能

動線を解析し  
ふらついているヒトを  
検知する

#### 属性

普通に歩くヒトとは異なる  
**不自然に  
ふらふら歩くコト**



## VOICE (kizkia営業担当者)



三菱電機インフォメーション  
システムズ株式会社  
産業・サービス事業本部  
産業第二事業部 営業第二部  
第一課 課長代理

鈴木 宏則

「つえ」を持つ人と「傘」を持つ人の区別、「車いす」を押す人と「カート」を押す人の区別など、精度の高い学習をするためにはさまざまな工夫が必要です。人の往来が多い環境では、AIが想定外の人やモノを検知してしまうこともあり得ます。我々は、映像解析を業務に適用するために、数々の実証実験や導入の経験により試行錯誤を重ね、環境条件に適したチューニングや、効果的な学習の方法、検知精度向上に向けた独自ノウハウを蓄積し、実用的なAIを作ってきました。一方、監視カメラを使った映像解析は、公共施設などの安心・安全を守るための一手段に過ぎません。検知したものを誰にどう通知し、対処していくかなど、適切な運用を検討することも非常に重要です。そのため、事業者様との密な対話のもと、実証実験などを通じて運用フローに踏み込んだ提案に努めています。

現在「kizkia」は映像解析を軸としていますが、AIの検知技術の可能性は、音や匂いをはじめ、各種センサー情報など多様な分野へと広がります。中長期的にはそれらをうまく組み合わせることで、より高度な“サポート”を実現可能とし、安心・安全の提供に貢献していきたいと考えています。





## 人権の尊重と多様な人材の活躍

三菱電機グループは、事業を行う各国・地域において、広く人や社会とのかかわりを持っていることを認識し、すべての人々の人権を尊重します。また、多様な人材が活躍できるよう「働き方改革」を進めています。



三菱電機株式会社  
総務部長

### 黄檗 満治

### マネジメントメッセージ

三菱電機グループは、2017年9月に「人権の尊重に関する方針」を制定し、国際規範に基づいた人権対応を進めることを宣言しました。

特に、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、人権デュー・ディリジェンスに取り組むことにより、人権への負の影響が生じることの防止・緩和措置、また、人権への負の影響を発生させた、又は関与していたことが明らかになった場合は是正の仕組みなどを整備します。

人権課題は、労働者、お客様、地域社会など多岐にわたっており、またその範囲もグローバルに、かつサプライチェーンまで及びことから、人権の取組はあらゆる部門が協力し、全員参加で進めていかなければなりません。そのために、三菱電機グループでは、一人ひとりが人権課題を「自分のこと」と認識し、行動できるよう、更なる従業員の意識改革、人権尊重の風土醸成に取り組んでいます。

2018年度は、人権に関する各種研修(eラーニング含む)や、共生社会\*の実現に向けた「三菱電機 Going Up セミナー」などの活動を通じて、人権の大切さや心がまえなどを従業員に教育しました。

また、誰もが仕事と生活を両立できる職場環境を実現させるための「働き方改革」にも積極的に取り組んでいます。

\*共生社会：すべての人が互いを尊重し、認め合える社会

## 人権デュー・ディリジェンスと重要課題の進捗について

### ● 2018年度の取組実績

#### 1. 人権インパクト・アセスメント

三菱電機各拠点、国内関係会社、海外関係会社、合計336拠点を対象に、三菱電機グループの企業活動における人権への影響の特定と評価(人権インパクト・アセスメント)を実施しました。また、外国人技能実習制度の活用有無と法に則った運用がされているか確認しました。

#### 2. サプライチェーンにおける人権の取組

2018年6月に制定した「CSR調達ガイドライン」を基に、調達部門が取引先に対し、人権を含む社会課題への取組についての同意確認を開始しました。

#### 3. 人権教育

三菱電機、国内関係会社の従業員71,588名を対象に、eラーニングを実施しました。また、人権インパクト・アセスメントの実施に合わせて、三菱電機各拠点、国内関係会社のCSR担当者向けに人権教育を実施しました。

### ● 2019年度の取組

#### 1. 三菱電機グループ内の人権リスク軽減策の実施

2018年度に実施した人権インパクト・アセスメントで挙げられたリスクが顕在化しないよう、人権教育などを通じて取組を強化します。

#### 2. サプライチェーンにおける人権の取組

2018年度から開始した、サプライヤーに対する人権を含む社会課題への取組に関する同意確認の取得を継続します。加えて、サプライヤーにおける人権侵害リスクの把握を推進します。

#### 3. 救済措置の仕組み整備検討

三菱電機グループでは、人権を含む様々な苦情・お問い合わせを受け付ける仕組みとして複数の問い合わせ窓口を持っています。今後は、国際的な規範に基づいた窓口対応の充実化を図っていく予定です。





人権

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/humanrights/index.html>

労働慣行

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/labour/index.html>

サプライチェーンマネジメント

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

## 「働き方改革」を通じて、誰もが仕事と生活を両立できる職場環境づくり

三菱電機では2016年度から経営施策の一環として「働き方改革」を掲げ、「成果・効率をより重視する企業風土への変革」と「仕事に対する意識の改革」を通じて、誰もが仕事と生活を両立できる職場環

境づくりに取り組んでいます。この「働き方改革」では次の4つの視点に基づき、各部門・組織階層や事業所ごとに具体策を展開しています。

### 「働き方改革」4つの視点

#### 業務スリム化による生産性向上

- ・ JIT改善活動の精神による徹底的なムダ取りの実践(会議、資料、移動時間の削減、業務プロセスの見直し等)
- ・ 業務効率化に向けたITの更なる活用

#### “成果・効率”の更なる追求

- ・ 限られた時間で成果を出すという意識の更なる定着
- ・ 生産性・効率性を評価する仕組みの構築と適切な評価運営の更なる徹底

#### 「仕事」と「生活」双方の充実

- ・ 「充実した生活」と「充実した仕事」は密接に関わるという意識の共有
- ・ 充実した生活で得た知見や心身の健康を、充実した仕事に活かしていくことの実践

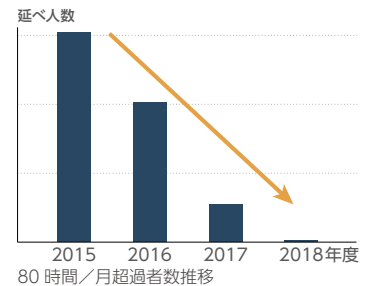
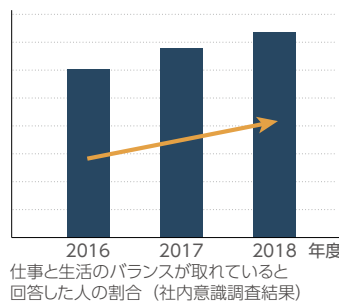
#### 職場内コミュニケーションの促進

- ・ 日々の挨拶や対話を通じた職場内での業務状況の共有
- ・ 個人間・部門間での相互連携や業務分担見直しによる負荷平準化の促進

※JIT(Just In Time)：全業務プロセスにわたり、全従業員が「徹底したムダ取り」により、「より良く」していく改善活動

## これまでの「働き方改革」活動の成果

2016年度の「働き方改革」の始動から3年が経過し、「働き方改革」4つの視点に基づいた活動に取り組んだ結果、働き方の変化を感じる人の割合が増加し、労働時間も大幅に減少するなど、取組の成果が表れています。



## TOPICS

### ● 働き方改革のオフィスにおける活動事例

会議でもモバイルPCを使うことが当たり前になるなど、働き方に変化を感じる人が増えてきています。すべての従業員が実感できるよう、これからも更なる風土醸成や環境整備に取り組んでいきます。働き方改革は単に業務効率化にとどまるものではありません。改革の目的である「誰もが心身の健康を維持し、いきいきと働ける職場の実現」に向け、一人ひとりが常に業務の価値向上を意識しながら、やりがいを持って働ける会社づくりを目指していきます。

1. IT環境の整備
2. 全社共通資料の簡素化・削減
3. 間接JIT改善活動の推進

### ● 社長フォーラム

事業所での働き方改革推進を一層加速させるため、2017年2月から、「社長フォーラム」と称した社長と従業員の対話集会を各エリアで開催しています。社長自ら経営方針の一つとして働き方改革の目的や取組の視点などを従業員に対し直接伝えるとともに、各事業所での活動推進における課題やコーポレートに対する意見、要望など、現場の声を広く吸い上げることで、より実効性のある施策展開に結びつけていきます。



社長フォーラム(2018年)

## コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化

三菱電機グループは、経営の機動性、透明性の一層の向上を図るとともに、経営の監督機能を強化し、持続的成長を目指しています。顧客、株主を始めとするステークホルダーの皆様の期待に、よりの確にこたえる体制を構築し、更なる企業価値の向上を図ることを基本方針としています。加えて、倫理・遵法の徹底はもとより、「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」は、会社が存続するための基本であると認識しています。独占禁止法や汚職防止に関する取組、サプライチェーンマネジメントについて、重要取組項目として強化を図っていきます。

### コーポレート・ガバナンス

#### マネジメントメッセージ



三菱電機株式会社  
常務執行役

原田 真治

近年、我が国のコーポレート・ガバナンスのあり方には大きな注目が集まっており、企業にとってコーポレート・ガバナンスの実効性の向上や継続的な強化は最重要課題の一つです。

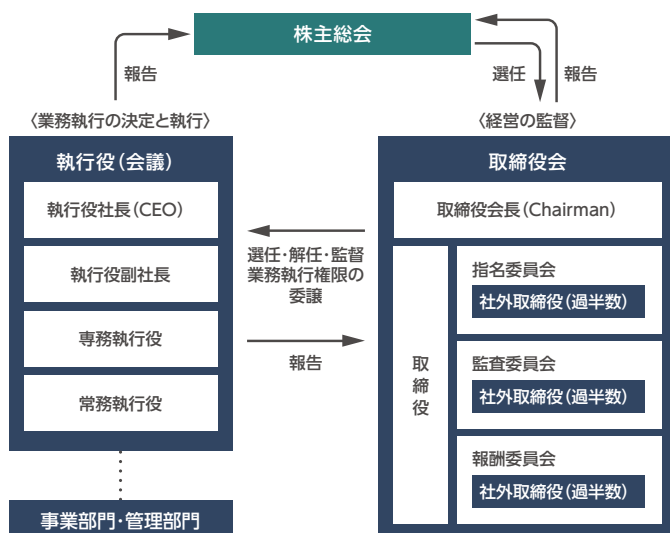
三菱電機は、「経営の監督と執行の分離」という基本理念を持つ指名委員会等設置会社であり、これに基づき、経営監督機能の長である取締役会長と、最高経営責任者である執行役社長を分離するとともに、両者を指名・報酬委員会のメンバーとはしていません。このように、経営の監督と執行を明確に分離することにより、三菱電機はコーポレート・ガバナンスをより実効性のあるものとしています。

また、三菱電機ではCSRの重要課題にもあるとおり、コーポレート・ガバナンスの継続的な強化を行っております。三菱電機では取締役会の経営監督機能の一層の向上のため、2015年度より社外取締役への情報提供と意見交換の場を設けており、2018年度もこの取組を継続し、より取締役への適時適切な情報提供に努めました。

また、取締役会の更なる実効性向上を図るため、毎年実施することとしている取締役会レビューを、2018年度も実施いたしました。レビューの結果、取締役会が適切に経営監督機能を発揮していくために必要な、執行側との適時適切な経営情報の共有については、毎年の取締役会レビューの結果を踏まえた改善が継続的かつ効果的に行われており、回を重ねるごとに良いものとなっているとの評価を受けました。

このような評価から、三菱電機取締役会の実効性は十分に担保されているものと考えておりますが、今後は、監督側と執行側との意見交換の場の更なる充実を図るとともに、レビュー結果についての個別インタビューの実施や意見交換時間の拡大等による取締役会レビューの運営改善を行い、取締役会の実効性の更なる向上に努めたいと考えております。

三菱電機は、今後も「健全なチェック機能が動く企業経営」を目指し、より一層充実したコーポレート・ガバナンス体制を構築していきます。



コーポレート・ガバナンス体制



取締役の事業所視察



コーポレート・ガバナンス

[http://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/management/corp\\_governance/index.html](http://www.MitsubishiElectric.co.jp/ir/management/corp_governance/index.html)

コンプライアンス

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/governance/compliance/index.html>

サプライチェーンマネジメント

<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/social/supplychain/index.html>

## 社外取締役メッセージ

三菱電機は多種多様な事業をグローバルに展開しており、これらの事業が適切に執行されているかを取締役会として監督するには、取締役に対して適時適切なタイミングで経営情報が提供されることが非常に重要です。

三菱電機においては、取締役会では経営の監督を行う上で相当に詳しく、十分な情報の提供がなされており、また社外取締役を中心とした情報共有の場も設けられ、更なる経営情報の提供があるため、取締役が受け取る情報は非常に充実していると考えております。さらに、これら以外でも事業所視察などの機会が多く、取締役として現場の声を聞き、地に足のついた経営情報を得ることに努めていることが伝わってきます。

加えて、取締役会の実効性を評価し、その向上を図るため、全取締役を対象とした取締役会レビューが毎年実施されており、取締役会の運営面や情報提供のあり方などに自由に発言できる場が提供されております。

取締役会レビューの結果を踏まえた見直しは継続的に行われており、回を重ねるごとに改善がなされ、従来以上に率直な議論が行われるようになってきていると感じております。

これらの機会は、取締役として三菱電機の経営状況を理解し、議論に参画する上で非常に有用と感じております。今後とも、取締役会の経営監督機能のより一層の充実のため、経営情報の適時適切な提供を更に充実させてほしいと考えております。



三菱電機株式会社  
社外取締役

藪中 三十二

## コンプライアンスの継続的強化、サプライチェーンマネジメント

三菱電機グループでは、2001年に制定した「企業倫理・遵法宣言」をコンプライアンスの基本方針として、「倫理・遵法の徹底」は会社が存続するための基本であると認識しています。このような認識の下、「法令遵守」のみにとどまらず「企業倫理」の観点も含めたより広義の「コンプライアンス」を推進すべく、コンプライアンス体制の充実を図るとともに、従業員教育にも注力しています。

独占禁止法違反防止については、グループを挙げて再発防止・風化防止に継続的に取り組んでいます。三菱電機及び国内外の関係会社を対象とした社内規則の整備と運用、独占禁止法に特化した内部監査などの取組を強化したほか、eラーニングと対面式を組み合わせた従業員教育も重点的に行っています。今後も日常の事業活動や社内規則の運用状況に対する定期的なモニタリング、取引実態にあわせた実務的な従業員教育など、再発防止・風化防止のための更なる取組を図っていきます。

贈収賄防止については、役員・従業員が贈賄行為をしないこと、贈賄行為によらなければ達成できないような利益を追求しないことなどを改めて内外に示すべく、2017年4月1日、「三菱電機グループ

贈賄防止ポリシー」を制定し、グループを挙げて贈賄防止に取り組んでいます。また、国内外公務員などへの対応について社内規則の整備と運用、内部監査や自己点検などのモニタリングを実施し、贈賄防止の対策を講じています。さらに、公務員などと接触する機会のある従業員を対象とした対面式とeラーニングを組み合わせた教育を実施しています。今後も、世界的に贈賄規制が強化されている現状を踏まえ、グローバルレベルでの事業拡大に対応すべく、各地域の取組を一層充実させるとともに、汚職に巻き込まれるリスクが特に高い国や取引先を抽出し、効果的かつ効率的に対策を講じていきます。

サプライチェーンマネジメントについては、国内外のお取引先を公平・公正に選定・評価するため、「資材調達基本方針」及び「CSR調達指針」の考え方をお取引先に説明し、ご理解いただくとともに、三菱電機グループが定める取引先選定評価基準に基づきお取引先を適正に評価することで、サプライチェーンにおけるリスクを低減させています。また、2018年に制定した「CSR調達ガイドライン」の内容について、お取引先へ活動推進に向けた同意確認を実施しています。



アジア地域コンプライアンスマネージャー会議



お取引先への説明会（タイ地区）



# 社会貢献活動

## 理念

三菱電機グループは、社会の要請と信頼に応える良き企業市民として、持てる資源を有効に活用し、従業員とともに、豊かな社会づくりに貢献する。

## 方針

- 社会福祉、地球環境保全の分野において、社会のニーズを反映し、地域に根ざした活動を行う。
- 科学技術、文化芸術・スポーツへの支援活動を通じ、次世代の人材を育む活動を行う。



社会貢献活動支出額 約 **15.2** 億円\*



※支出額は三菱電機。自社プログラム・製品寄贈等の社会貢献関連費用を含みます。

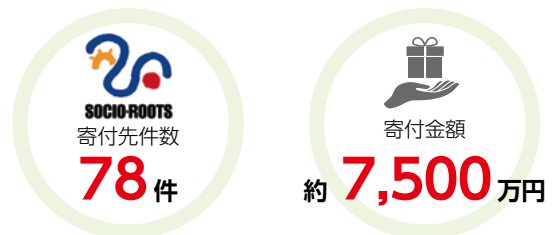
## 社会福祉



### 誰もがいきいきと暮らせる社会を目指して

誰もがいきいきと暮らせる社会をめざして、社会福祉分野での支援活動に取り組んでいます。SDGsが示す「誰一人として取り残さない」社会を目指し、障がいのある方の社会参加や自立支援、サポートが必要な子どもたちを応援しています。

### 2018年度三菱電機SOCIO-ROOTS (ソシオルーツ) 基金寄付実績



## 活動事例

### 三菱電機SOCIO-ROOTS (ソシオルーツ) 基金

三菱電機では、従業員からの寄付に対して会社が同額を上乗せするマッチングギフト制度「三菱電機SOCIO-ROOTS基金」を通じて、社会福祉施設・団体への支援を行っています。

2019年3月時点で寄付先は累計約2千件、金額にして約13億4千万円を寄付しています。



### 米国三菱電機財団との活動 (アメリカ)

米国三菱電機グループの従業員は、障がい者の社会参加を応援する米国三菱電機財団と連携して活動しています。活動の事例として、学生を職場へ招く「Disability Mentoring Day」の取組があります。障がいのある高校生や大学生に、工場や倉庫、事務所での就労体験の場を提供し、彼らが豊かな人生を送れるようキャリア形成の手伝いをしています。







## 地球環境保全

### 地球の未来を考えて

三菱電機グループは、行政や地域のみなさまのご協力のもと従業員が主体となって進める環境保全活動や、自然を大切にする気持ちを育む子ども向け野外教室を展開しています。

### 活動事例

#### 里山保全プロジェクト

三菱電機グループの従業員で取り組む活動として、2007年10月から、事業所周辺の公園や森林、河川などの身近な自然を回復する活動「里山保全プロジェクト」を進めています。多様な生命を育み、様々な恵みを与えてくれる自然へ恩返しするとともに、事業所のある地域に貢献することが狙いです。NPOや自治体にご協力いただきながら、「地道と継続」をモットーに各地域の状況に応じた活動を実施しています。



### 2018年度の主な活動実績



里山保全活動

99回



三菱電機野外教室

28回

#### 三菱電機グループ合同による植樹活動(タイ)

タイでは毎年、タイ国三菱電機財団のアレンジにより、三菱電機グループ合同でのボランティア活動を行っています。これまでに小学校での備品修繕や植林、サンゴの植樹活動等を実施しており、タイ各地から毎回およそ500名の社員が参加しています。



## 科学技術

### 未来のエンジニアを育むために

次世代の人材育成として、子どもたち向けの科学教室や教育支援を通じ、未来のエンジニアを育む活動に取り組んでいます。

### 活動事例

#### みつびしでんき科学教室

三菱電機では2009年から「みつびしでんき科学教室」として、電気や熱、音、光、風、そして通信やプログラミングなどにかかわる基本原理を、実験や工作を交えながら子どもたちに体感してもらう教室を開催しています。

実験や観察を通して理科の楽しさを伝え、学んだ基本原理と製品とのかわりを知ってもらい、製品が社会でどのように役立っているかも実感してもらいます。



### 2018年度

#### みつびしでんき科学教室活動実績



開催回数

72回



参加者数

約4,800名

#### VOICE (理科教育推進者)



三菱電機株式会社  
人材開発センター  
理科教育推進グループ  
グループマネージャー

村田 雄一郎

子どもたちの理科に関する関心が薄れ、それに呼応するように、日本の科学技術力が年々低下しつつあるように思います。教育界などで様々な対応がなされており、全国に多数の拠点を持つ三菱電機でも、微力ながらお役に立ちたいと考え、「みつびしでんき科学教室」に取り組んでいます。地域密着型の活動が、次世代を担う子どもたちにとって、理科への関心を高めるきっかけになることを期待しています。



文化芸術・  
スポーツ



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会とその先の未来へ

障がい者スポーツの普及・啓発に寄与するとともに、あらゆる人がお互いを尊重し認め合う「共生社会」の実現への貢献を目指した活動をしています。

一例として、2016年から開始した「Going Upキャンペーン」をはじめ、全国各地で「車いすバスケットボール」や「ボッチャ」の体験会を開催しており、2018年度は全国で43回、44,856人の方に参加いただきました。



参加者の感想

車いすバスケットボール体験会参加者(30代/男性)

子どもと共生社会について考える良いきっかけになりました。(子どもが)車いすバスケットボールだけでなく、他のパラリンピックスポーツにも興味を示したようでした。

ボッチャ体験会参加者(40代/男性)

ボッチャは名前だけ聞いたことがありました。戦術が必要な競技で、障がい者スポーツのイメージが変わりました。

VOICE (体験会実施担当者)



三菱電機株式会社  
静岡製作所 総務部 総務課

久松 弘明

2017年に工場の地域交流イベントにて初めて車いすバスケットボール体験会を実施して以降、共生社会の実現に貢献するべく、毎年、このイベントにて本体験会を開催しています。2回目の開催以降は、地元の子供たちやバスケットボールチームの方に協力いただきながら運営を行うことで、地域とのつながりも意識した活動へスケールアップさせました。

その結果、2018年の体験会では、前年の体験者のご親族・お友達等を連れてきて共に体験している場面が見られ、本活動を継続して開催している意義を感じています。今後も本体験会は継続させながら、さらに体験できる障がい者スポーツの種目を増やすことで普及・啓発活動を進め、「共生社会」の実現へ寄与していきたいと考えています。

障がい者スポーツの練習場提供

情報技術総合研究所・大船体育館の利用協定を一般社団法人 関東車椅子バスケットボール連盟と締結、体育館を車いす利用に合わせて改修工事を行い、2016年4月から関東車椅子バスケットボール連盟に所属するチームへ練習場として貸し出しています(原則月2回)。

体育館を車いすバスケットボールの練習場所として提供することで、車いすユーザーがスポーツを楽しむ機会を増やすとともに、競技力の向上を支援しています。



# 三菱電機グループ CSRの取組

## ウェブサイト/ハイライト掲載情報一覧

◎= ウェブサイト、ハイライトともに掲載 ●= ウェブサイトのみ掲載 ○= ハイライトにも一部掲載

会社概要及び業績		◎	
グローバルな事業展開		ハイライトのみ	
社長メッセージ		◎	
三菱電機のCSR	経営戦略	◎	
	三菱電機の事業分野	◎	
	事業を通じた社会への貢献	○	
	CSRマネジメント	価値創出活動	◎
		バリューチェーンにおける取組	●
		マネジメント	◎
		CSRの重要課題とSDGsマネジメント	◎
		イニシアティブ/外部評価	●
		CSRの重要課題の特定・見直しプロセス	●
		CSR重要課題に関するマネジメント状況	○
	CSRの重要課題への取組	持続可能な社会の実現	◎
		安心・安全・快適性の提供	◎
		人権の尊重と多様な人材の活躍	◎
		コーポレート・ガバナンス、コンプライアンスの継続的強化	◎
	SDGsへの取組		●
	ステークホルダーとのコミュニケーション	コミュニケーション状況	●
		読者アンケート結果	●
有識者ヒアリングの実施		○	
有識者とのダイアログ開催		○	
社内浸透策		○	
ガバナンス	コーポレート・ガバナンス	○	
	コンプライアンス	○	
	リスクマネジメント	●	
	情報セキュリティへの対応	●	
	研究開発	●	
	知的財産	●	
	株主・投資家との対話	●	
環境		●	
社会	お客様への対応	●	
	人権	○	
	労働慣行	○	
	サプライチェーンマネジメント	○	
	社会貢献活動	○	
編集方針		○	
ガイドライン対照表	ISO26000	●	
	GRIスタンダード	●	
	環境報告ガイドライン(2018年版)	●	
ESG調査用インデックス		●	

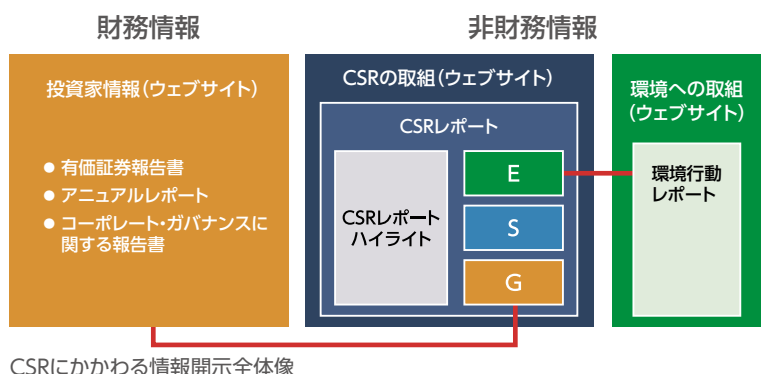
三菱電機グループのCSRに関連するより詳しい情報はウェブサイトに掲載しています。



CSRの取組  
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/csr/index.html>

環境への取組  
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/environment/index.html>

三菱電機について  
<http://www.MitsubishiElectric.co.jp/corporate/gaiyo/index.html>



三菱電機株式会社

[www.MitsubishiElectric.co.jp](http://www.MitsubishiElectric.co.jp)



家庭から宇宙まで、エコチェンジ。

「eco changes」は、家庭・オフィス・工場から社会インフラ、そして宇宙にいたるまで、幅広い事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献していく、三菱電機グループの環境ステートメントです。

一人ひとりが、エコチェンジ。  
ものづくりを、ビジネスを、  
エコチェンジ、エコチェンジ。

お問い合わせ先：〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3〈東京ビル〉 総務部 CSR推進センター TEL (03)3218-2075